

2

研究の目的と範囲

Research Objectives and Scope

研究目的および背景

- 本研究は「東学」関連思想が東洋の哲学的思惟方法を通じて東西洋を融合した天観・地観・人間観を構築したことを明らかにしようとする
- 東学思想と大巡思想の比較を通じて、相生的(相生的)天界観・地界観・人界観がどのように導出されたかを分析
- 西洋近代性に対する代案としての自生的近代性の樹立過程と特徴を考察
- 東学思想と大巡思想に現れる東洋的思惟体系の哲学的構造と論理的整合性の再評価

核心概念定義

- **相関的思惟(correlative thought)**

万物の全体をまず見て、脈絡と関係から部分を見る東洋のホリスティックな思惟体系

- **リミナリティ (Liminality)**

通過儀礼の中間地帯として、変化以前と以後の間の第三の領域を説明する理論

- **再活性化(Revitalization Movements)**

外部の脅威に対して伝統を活用した対応過程の変化と維持の機制を説明する理論

研究範囲および方法論

- 東西洋思惟体系の比較相関的思惟(相関的 思惟)と分析的思惟(analytic thought)の対比
- 研究範囲:東学思想と大巡思想の天観(天観)・地観(地観)・人間観を中心に自生的近代性を追跡
- 研究方法:文献分析および先行研究の考察、リミナリティ(Liminality)と再活性化(Renewal)理論の適用
- 伝統的な天観・地観・人間観の近代的変化およびその原理を両思想間で相互比較

研究構造概要

- I. 先行研究分析
- I. 近代性と自生的近代性の概念的区分、理論の提示
- I. 東学思想の天観地観人間観の分析
- IV. 大巡思想の天観地観人間観の分析
- V. 両思想の比較および総合
- VI. 結論および研究の意義

東学思想の天観地観人間観

1. 侍天主的(侍天主的)天観

- ・ 東洋の同化的(同化的)天観と西洋の形相的(形相的)天観の融合
- ・ 天を奉る概念で神聖と人間の新たな関係を樹立

2. 造化定(造化定)的地観

- ・ 東洋の凝縮的(凝縮的)地観と西洋の質料的(質料的)地観の統合
- ・ 自然の造化を定める概念を通じた近代的自然観の提示

3. 永世不忘(永世不忘)の人間観

- ・ 東洋の接化的(接化的)人間観と西洋の成長論的人間観の結合
- ・ 永遠に忘れない歴史意識と近代的人間主体の確立

大巡思想の天觀地觀人間觀

- ・ 人身降世の天界觀-上帝が直接人間の身をもって降世されることで天地人三界を統合する観点
- ・ 天地誠敬信の地界觀-天地が天地神明の誠(誠)と敬(敬)と信(信)によって発生し維持されるという世界觀
- ・ 成事在人の人界觀-事の成就是人にかかっているという人間主体性中心の世界觀
- ・ 参東学としての特性-東学思想で提示された用語を根本的に再定義補完し、東洋の哲学的思惟方法論により忠実な体系を構築

研究の意義および展望

- ・ 自生的近代性の確立としての「東学」に対する本質的理解の可能性を提示
- ・ 東西洋思惟方法論の融合を通じた相生的(相生的)世界観構築の意義
- ・ 現代文明の危機解決のための代替的近代性モデルとしての価値の発掘
- ・ 東学思想と大巡思想の天観・地観・人間観に内在する東洋哲学の現代的適用可能性の模索